

令和7年度学校評価報告書

令和8年(2026年)3月18日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌稲雲高等学校長 矢橋 佳之

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

1 協働体制の確立～学校組織の強化・活性化
2 グローバルな視点での教育活動の充実～対話型の授業の推進、ICTの効果的な活用の推進
3 穏やかな雰囲気環境づくり～業務の精選による職場環境の改善

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の協働体制の確立に今年度も努め、学校課題の解決に主体的に取り組む気運を醸成することができた。 ・生徒が何事にも依存することなく、主体的に課題を解決する力を養う環境を作ることができ、生徒も議論を積極的に行われるようになった。 ・本校の教育活動を地域住民や保護者に周知するため、PR方法の工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の著名人を招いての講演会や地域の課題解決を考える取組など昨年よりも地域に目を向けた取組が増えたことは良いと思われる。 ・DXハイスクール事業により、生徒の主体性をはぐくむことができれば、生徒から学校の魅力を発信できるようになるだろう。生徒が自分の学校の魅力を語ることは力強いメッセージになる。次年度から本格始動と言うことで期待したい。
改善方策	生徒の活躍する姿を積極的に発信するとともに、地域人材や外部機関との連携を一層推進する。	
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディーサポートやスタディサプリなどの活用が定着し生徒の主体的な学習に繋がっている。災害時や感染症等の休校時にも課題を課すことが容易にでき、学習の効果が現れている。 ・オンライン授業等による長期病気療養や不登校生徒に対する学習保証の取組は定着してきた。 ・探究を柱とした授業形態への変換と評価の在り方についての論議は更に進めることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BYOD端末を活用した日常の授業の取り組みの充実により、生徒の理解向上が期待できる。今後一層の授業改善を期待する。 ・DXハイスクールにおける生徒自らが課題を設定して地域課題を解決しようとする取り組みが推進されることを期待する。
改善方策	新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善・評価改善を目指し、校内研修の充実を図る。	
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを積極的に認知することにより、全教員が「いじめは誰にでもどこにでも起きうるもの」という認識で組織的に対応することができた。その結果、早期対応に繋がり、重大事態に進展する案件もなかった。 ・主体的に決まりを守る姿勢を身につける一歩として、ルールの改定を全校生徒で討議させ、自治的な能力の育成につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に生活指導の充実が図られており、今後も時代に即した指導の充実に取り組んでほしい。 ・SNSの使い方やネットトラブルについての指導は今後も継続してもらいたい。
改善方策	社会生活を念頭に置いた、生徒の公共性や社会性の獲得に向けた取組の充実を図る	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・各種模試や講習会での指導は手厚く行っているが、近年の生徒の進路に対する意識に変化が見られ、共通テストによる一般入試を受検せず、総合型選抜や推薦による年内入試による進学を志望する生徒が増加しているため、その対策が急務となっている。 ・生徒や保護者への進路に関する最新情報の提供や、模試結果の分析などを充実させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中では進学校のイメージがあると思うが、入試の形態も変化しており、その対策は必須の事項である。本校の魅力である、落ち着いた環境の中でのびのびと学ばせる環境は堅持しつつも、将来の地域創成を担う若者を育成する取組を期待する。
改善方策	令和7年度入学生からの教育課程の変更により、総合型選抜にも強い本校となるためにも、今まで培ってきた受験指導のノウハウと、教科とも連携した進路指導体勢の構築を図る。	
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ・多く教員が関わり、生徒支援に対する考え方を擦り合わせることで、本校としての支援体制が構築された。そのことにより学年間や学級間の生徒支援に差が生じずに全体共有された中で支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する生徒に関しては、今後も増加することが予想される。支援が今後も滞ることがないように、外部との連携も視野に入れていただきたい。
改善方策	家庭や外部の専門家との連携を図り、持続可能な支援体制の構築と生徒を真ん中に据えた体制づくりを構築していく。	
公表方法	学校評議員会での説明、PTA役員への配布、PTA総会での説明、web上での公開、各種会合等を通して地域住民への説明	